

平成24年度後期

長尾小 学校関係者評価の結果をふまえた 学校評価の自己評価の結果を報告します

○今年度、長尾小では、学校評価の目的「児童生徒がより良い教育活動等を楽しめるよう学校運営の改善と発展を目指すための取組とする。」の実現のため、自己評価の方法を見直しました。これにより、方策が一層具体的になりましたので、お知らせすると共に、皆様のご協力をお願いいたします。

I 豊かな心

基本的な生活習慣の定着 →児童会で「正しい言葉遣い集会」を急遽実施し、職員室の入り方・インターフォンの出方、来客時のあいさつの仕方について範を示してもらい、指導のきっかけとできるようにしました。効果がすぐに現れ、他の場面でも応用していけるよう考えています。



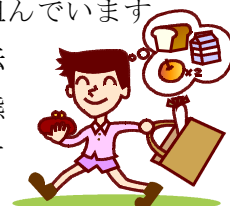
読書の推進 →平日の家庭での読書時間の確保は難しいと思われるので、読書の大切さを伝え「長尾小週末読書」を年度初めの読書集会で投げかけて、それをきっかけとして一層読書を楽しむ子どもにしていきたいと考えています。

II 確かな力

基礎的・基本的な内容の確実な定着 →考える力を伸ばすのに適した教科・単元・時間等を明確にし、その実践の直後にアンケートをとって児童の意識の変化を明確に見取ることについて話し合いました。

家庭での学習習慣の定着 →ほとんどの児童がしっかり家庭学習に取り組み力を付けていますが、雑な取り組みも見られるのが惜しいところです。静かな環境で家庭学習に取り組めるよう、学習する時間や場所を決めさせていきます。

キャリア教育の推進 →児童は、家庭でも学校でも割り当てられた仕事についてはよく取り組んでいます。「PTA新聞」で特集を組み、手伝いのよさと各家庭での手伝いの実態を知らせ、手伝いの習慣化を図っていきます。



III 健康体力・安全確保

危険回避能力の育成 →2月中に配付の災害対応の改訂版を通して、家庭で危機管理について話し合う機会を設定します。



安全な生活や学習の環境の整備 →安全な遊具の使い方について子どもに考える場を設定したり、修理のプロセスを知らせたりすると共に、修理等に対応した箇所については学校だよりを通して保護者へ情報提供を行っていきます。

IV 連携・組織運営

保護者の学校教育への理解 →相談しやすくなった保護者が+4%の反面、相談しにくくなってしまった保護者も+4%となっています。これを重く受け止め、保護者の意見の取り上げ方やトラブルへの対応など一層の配慮を行うことについて確認しました。



学校評価システムを活用した学校課題の解決 →自己評価の考察を基に、生徒指導部会・研修推進委員会等で再度練り、「いつ・どこで・誰が・どのように」実施していくのかを明確にしました。進捗状況や成果を確認し合いながら取り組みを進めていきます。

目標管理を活用した指導力の向上 →人事評価の目標の検証となるよう、授業公開の期間を工夫したために、目標への意識が高まっています。次年度は実践研の前の年であることを生かし、授業を見合う機会を増やし、互いに高め合うことができるような研修としていきます。

《学校評価アンケート集計表》

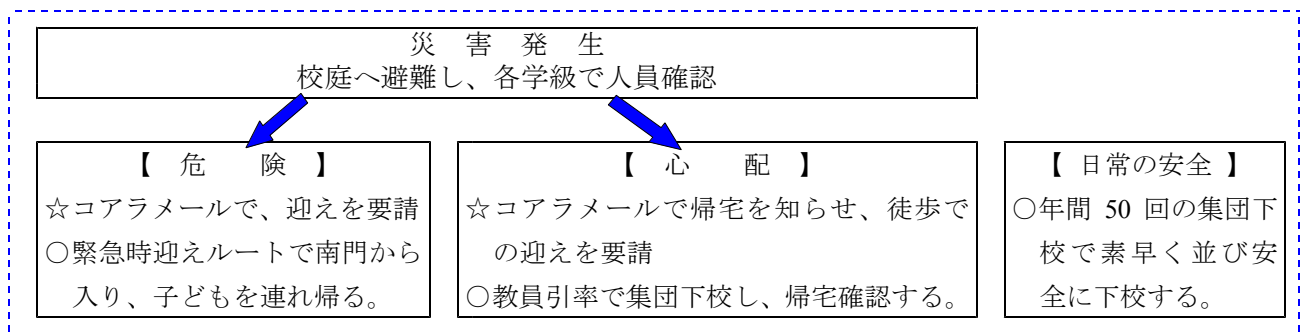
上段：24年度前期

下段：24年度後期（数字の無い項目はアンケート未実施）

評価対象	アンケート項目(児童用)				児童				保護者				職員			
					A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
I 豊かな心	1	友達のよいところを見つけることができますか。	40 44	41 49	16 12	3 5	55 49	41 41	4 5	0 4	15 16	75 79	10 5	0 0		
	2	学校は楽しいですか。	61 62	27 23	8 11	4 4	78 76	20 17	2 2	0 5	30 32	70 68	0 0	0 0		
	3	あいさつ、返事、正しい言葉遣いなどしていますか。	42 36	47 48	8 13	2 2	14 15	68 62	17 21	1 2	0 0	75 74	25 21	0 5		
	4	本を読むことが好きですか。	56 54	23 22	15 18	6 7	14 19	68 19	17 44	1 19	25 26	55 53	20 21	0 0		
II 確かな学力	5	友達の意見を聞いて自分の考えがもてますか。	28 29	44 43	22 22	6 6	11 15	50 50	35 31	5 5	0 0	80 84	20 16	0 0		
	6	宿題を確実に提出していますか。	61 57	29 29	7 10	3 5	67 64	29 25	2 5	2 6	20 32	80 68	0 0	0 0		
	7	係・当番活動(掃除、給食、委員会、係)などで自分の役割を果たしていると思いますか。	66 60	29 29	3 4	2 6	27 31	33 29	30 30	10 10	30 37	65 63	5 0	0 0		
III 健康体力	8	早寝、早起き、朝ごはんを実行していますか。	52 47	30 31	14 14	4 8	67 63	30 28	3 4	0 5	10 47	65 32	20 21	5 0		
	9	進んで運動に取り組んでいますか。	55 53	30 29	12 15	3 3	46 43	32 34	19 15	2 7	30 26	65 68	5 5	0 0		
	10	安全に注意して通学や学校生活をしていますか。	63 65	32 30	4 5	1 1	33 32	53 49	13 17	1 3	55 74	45 26	0 0	0 0		
	11	校舎や校庭の中に危険なところはありますか。	56 63	27 20	11 10	6 7	16 46	60 38	22 12	1 4	69 47	23 47	8 5	0 0		
IV 保護者との連携	12	心配があったときは、学校や担任の先生に連絡や相談ができますか。(保護者用)					50 54	39 32	11 8	1 5	30 53	60 47	10 0	0 0		

危険回避能力の育成を通して感じたこと

「災害等発生時帰宅マニュアル」を2月22日(金)のPTA実行委員会と25日(月)に配付しました。



【危険】【心配】【日常の安全】の3段階に分けて対応を示してあります。【日常の安全】をここに入れているのは、年間50回の「集団下校」をスムーズにできる学校であることが災害時に迅速に対応するための大切な条件であると考えているからです。

【**集団下校**】では、回数を重ねているので、スムーズに並ぶことができるようになりました。しかし、11月の授業参観の日の下校で全く並べない状況になりました。おうちの方が見える所に居ることがこんなにも大きな変化の要因になるものなのだと痛感しました。そこで、2月の低学年の授業参観の際には、子どもが校庭に向かって並ぶようにするとともに、保護者の皆様の協力を得て、校舎前で待たないでいただきました。しかし、2月の高学年の授業参観の日には同様にしたにもかかわらず、傘をさしていたために、少々時間が掛かりました。これからも、様々な場合を想定した「子どものフワフワしてしまう原因」を取り除くための指導や工夫を重ね、もしもの時の迅速な人員確認につなげていけるようにしたいと考えています。ご協力をお願いいたします。